

MOTから見る オープン & クローズ戦略の基本的な理解

2025.1.20

弁護士法人内田・鮫島法律事務所

弁護士・東京科学大学MOTコーディネータ 鮫島正洋

オープン & クローズ戦略についてよくある誤解

- オープンは特許出願をすること、クローズは特許出願をしないでブラックボックス化（ノウハウ管理すること）だと思われている
- 「オープンイノベーション」のオープンと「オープン & クローズ戦略」のオープンの意義が混同されている。

→いずれも「ちょっと違います」

オープン & クローズ戦略の本質

- 知財マネジメント／ビジネス戦略（MOT）ともに「オープン」「クローズ」という用語を用いるが、意味は全く異なる。

	オープン	クローズ	オープン／クローズの関係
知財マネジメント	特許出願	ブラックボックス化	両立しない
ビジネス戦略	ライセンスにより技術を他者に使ってもらう	シェアを落とさない (狭義)	両立が必須

他者の資本によって市場を広げる

広がった市場において競争力を堅持する

事業拡大の方法論

ニッチトップからオープン＆クローズ戦略へ

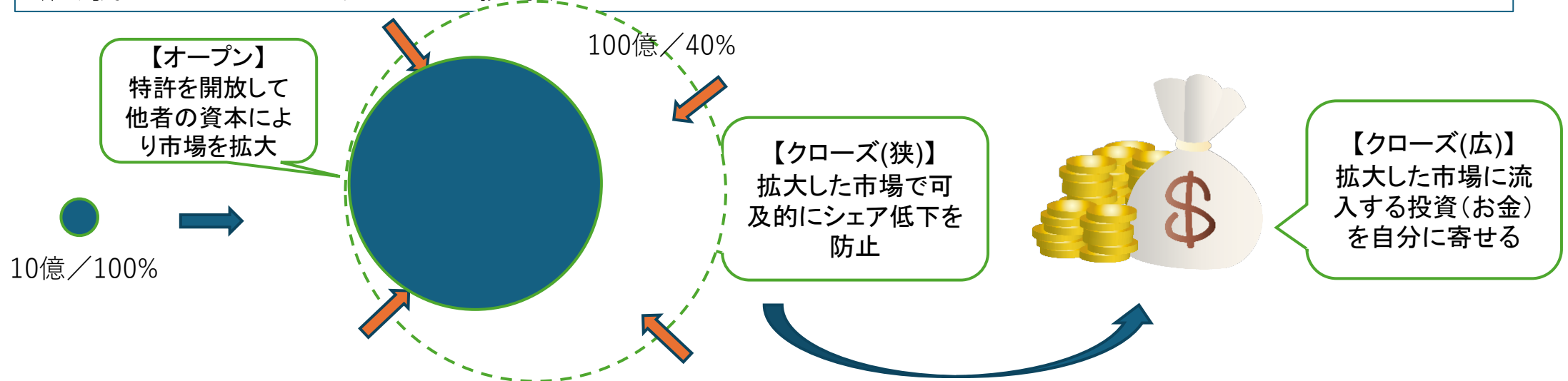
黎明期ビジネス: 知財を活用してニッチトップ(ニッチ市場でシェアトップ)を実現する



成長期・成熟期ビジネス:
市場を広げ、シェアの低下を可及的に防止する(狭義のオープン＆クローズ戦略)



クローズ戦略の拡張:
「シェアの低下を可及的に防止する」だけがクローズ戦略ではない?
(広義のオープン＆クローズ戦略)



国策としてのオープン & クローズ戦略についての感想 (個人的な意見)

- 標準化特許の取得に力を入れていることは評価できるが、
「オープン」偏重に過ぎるのでは？
→ 幾ばくかのロイヤリティがもらえるだけで、ビジネス的には負けてしまうのでは？
- オープンと同時に「クローズ戦略」（日本に収益をもたらすための戦略）を
考える必要があるのでは？
- 「クローズ戦略」を考える際に、「必須特許 vs 差別化特許」
という構図だけでは限界があるのでは？
- 「標準化人材」（オープン化を促進する人）の育成のみならず、
クローズ戦略も含めて考えることができる戦略的人材の育成が必要なのでは？

NICTに期待すること（個人的な意見）

企業がオープン＆クローズ戦略をとる上で重要なことは、

- クローズ戦略（収益化戦略）を意識した、知財化・標準化が必要という観点
- 単なる知財取得・標準化ではなく、クローズ戦略（収益化戦略）まで及ぶ人材の育成や活用

今後、NICTに期待すること

- NICTの持つ知財化・標準化のリソースのさらなる活用と強化
- 産学連携の結節点として、企業の成果展開やビジネス化への支援や人材育成の取組強化



ご清聴ありがとうございました！

「技術法務で日本の競争力に貢献する」

弁護士法人内田・鮫島法律事務所

